



しも 霜はなんでできているの

すい き じめん 水じょう気がこおって、地面にできたもの

はる あき しも のうさくぶつ がい あた み
春や秋にテレビなどで、霜が農作物にひ害を与えたニュースを見ることがありますね。
にほんれっとう いどうせいこうきあつ よる きおん ひく
日本列島が移動性高気圧におおわれたとき、夜の気温がとても低くなる時があります。
このような は ひ よる じめん ねつ じめんちか くうき ひ
このような晴れた日の夜、地面からたくさんの熱がにげて、地面近くの空気が冷やされま
す。

ひ くうきちゅう すい き じめん
冷やされて、空気中にふくみきれなくなった水じょう気は、露（つゆ）となって地面や
しょくぶつ きおん どスーいか さ すい き こおり けっしょう じめん しょく
植物につきます。気温が0度C以下に下がると、水じょう気は氷の結晶になり、地面や植
ぶつ しょく
物につくのです。これが、霜です。

のうさくぶつ ひが い 農作物に被害が

きせつ しも のうさくぶつ じゅもく がい あた おら
季節はずれの霜ができると、農作物や樹木にひ害を与えることがあります。クワの新し
め き はな のうか
い芽がかれたり、くだものの木の花がかれたりするなど、農家にとってたいへんこまった
ことになります。

しも じょうほう のうか き きおん さ ふせ くふう
霜がおりる情報がでると、農家では木などをもやして、気温が下がるのを防ぐなどの工夫
をしています。

とし あき ふゆ しも はつしも
その年の秋や冬に、はじめてできる霜を、初霜とよんでいます。（監修 村山貢司）

